

公益財団法人 国家基本問題研究所
総合安全保障プロジェクト

中国軍事動向月報

2026年7月



JINF

Japan Institute
for National Fundamentals

目 次

1 全 般	・ ・ ・ 3
2 各軍等	・ ・ ・ 4
3 対台湾動向	・ ・ ・ 13
4 対日動向	・ ・ ・ 15
5 南シナ海動向	・ ・ ・ 23
6 軍事交流	・ ・ ・ 26
参考文献	・ ・ ・ 28

中国軍事動向月報：2026 年 7 月

2026. 8. 14

国家基本問題研究所 研究員 中川真紀

1 全 般

7 月は例年各軍の訓練が活発化する時期であるが、本年は日本周辺・台湾での活動も多く確認され、軍を用いた威圧を企図した訓練が展開された。

中露海軍共同演習から引き続く中露海軍海上共同パトロールの艦艇が日本 EEZ 内を航行し、日本を周回した。また、この間、中国艦艇が沖ノ鳥島近海の日本 EEZ 内で射撃を行った。

台湾海峡内を含む多くの海域で軍事演習の為の航行制限海域も設定された。

6 月から開始された海警による台湾東方海域での法執行パトロールは 7 月も継続した。また同海域で中国海洋調査船を活動させ、それを日本海保巡視船から中国海警が護衛したと主張する報道を行い、中国の管轄海域との既成事実化を引き続き強化した。

7 月 6 日には太平洋公海上に向け潜水艦発射弾道ミサイル (SLBM) の発射試験を行い、成功したと公表した。SSBN 戦略パトロールの実効性を示したものと言える。

南シナ海においては、中国海警法執行官が比海軍隊員を負傷させる等、威圧的な対応を強化した。

2 各軍等

(1) 全般

○ 上将昇任式¹

7月3日、習近平中央軍事委員会主席の出席の下、上将昇任式が挙行され、以下の2名が昇任した。

張曙光陸軍上将：中央軍事委員会紀律検査委員会書記兼同監察委员会主任

王剛 空軍上将：空軍司令員

昇任式記念撮影：奥右が王剛、左が張曙光



(出典：中国軍網20260703)

【コメント】

現在の中央軍事委員会のメンバーは、写真前列の習近平中央軍事委員会主席と張昇民副主席のみ。今回、中央軍事委員会紀律検査委員会書記であった張昇民が副主席に就任後、同職を張曙光陸軍上将が引き継いだことが判明した（就任時期は不明）。

10月には共産党中央委員会第5次全体会議（5中全会）が開催されることが決定しており、来年開催される党大会前に中央軍事委員会のメンバーが新たに任命されるかどうか注目される。

(2) 海軍

○ SLBM 発射実験

SLBMの太平洋への試験発射：概要

新華社202607061301（日本時間：1401）

7月6日12時01分（日本時間：1301）、海軍の戦略原子力潜水艦1隻が、太平洋上の関連公海海域に向けて訓練用模擬弾頭を搭載した潜水艦発射型戦略ミサイルを発射し成功、正確に予定海域に着弾した。今回のミサイル試験発射は中国の年次軍事訓練において定期的に計画されたものであり、関係国には事前に通告し、国際法および国際慣行に合致しており、如何なる特定の国や目標を対象としたものではない。

内閣官房・防衛省等プレスリリース20260706

○ 7月6日1130、在北京大使館が中国国防部から弾道ミサイル発射の説明受け
 ○ 日本領域の上空通過や排他的経済水域への飛来は確認されていない

米國務省報道官20260706

米国は、中国の潜水艦発射大陸間弾道ミサイル（実弾頭未搭載）の試験発射を監視、ミサイルは南太平洋に着弾

台湾顧立雄・国防相20260708

○ 発射されたミサイルはJL-2
 ○ 活動は全て掌握しており、今回発射されたミサイルは台湾の防空識別圏内を通過しなかった

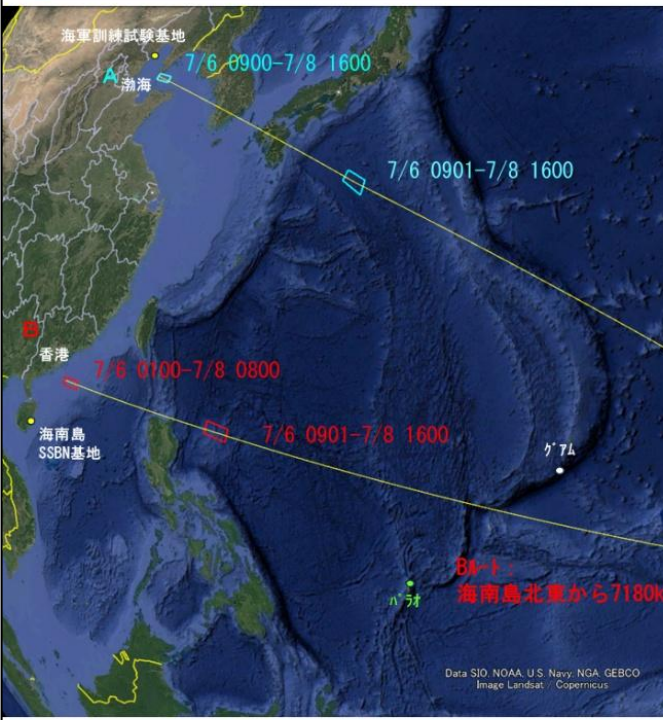


（出典：央视网20260221）



（出典：新華社20260706）

SLBMの太平洋への試験発射：飛翔経路



注：時間は通告された航行制限時間で日本時間に表示。緑字は台湾国交保有国
 （資料源：粵航警433/26、遼航警289/26、NAVAREAS - HYDROPAC1927/26・1922/26を基に筆者が作成）

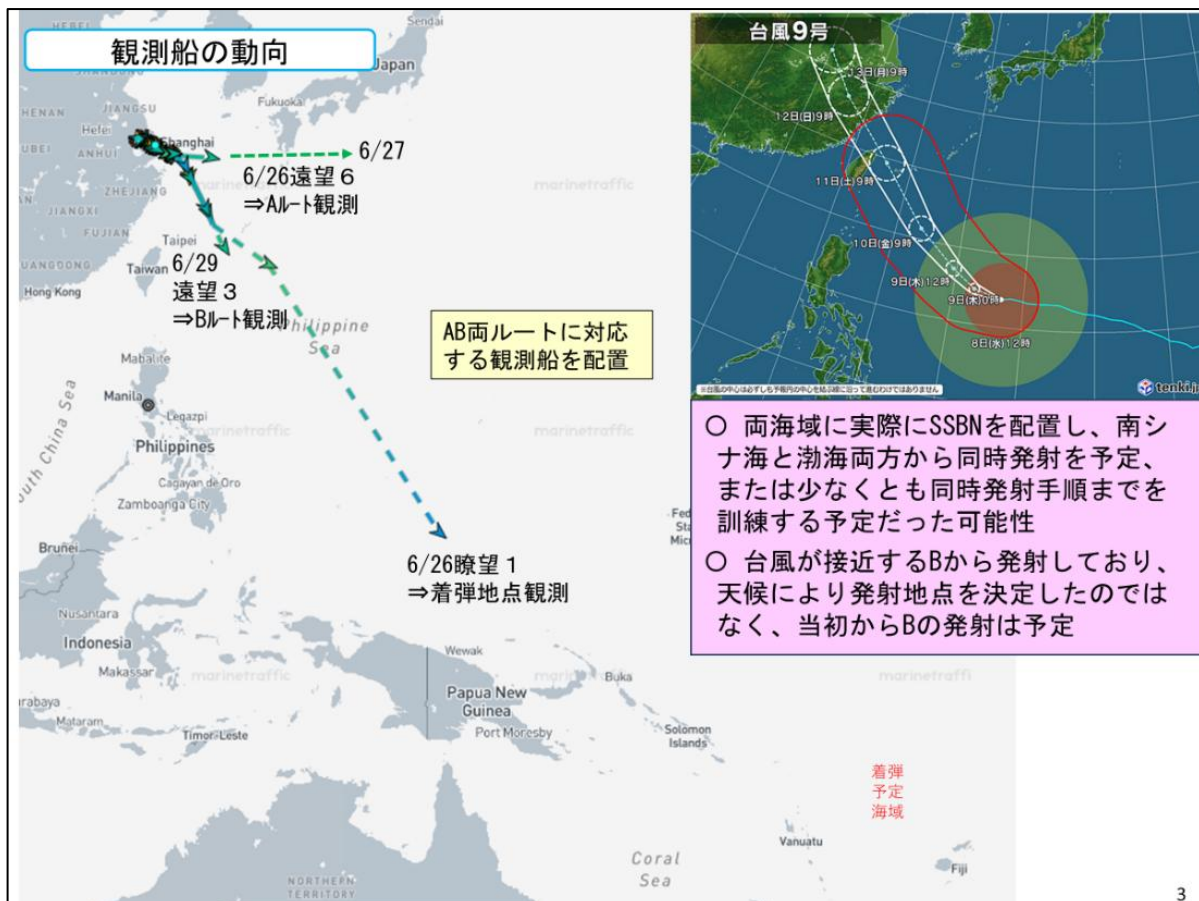
○ AB2ルートのNOTAM通告

◇ 共通：JL-2ならミニマムエネルギー軌道の最大射程で試験可能

◇ A：海軍ミサイル試験支援施設に近く、試験に必要な設備が充実。日本に対する威圧となる一方、日本にテレメトリーを捕捉される

◇ B：亜龍SSBN基地に近く、基地でのミサイル搭載・出港・発射地点に移動と実戦的な発射が可能

○ 日本上空通過なし⇒Bルートで発射



SLBMの太平洋への試験発射：発射ミサイル

JL-2（巨浪-2）潜水艦発射弾道ミサイル
射程：7200km



（出典：百度图片）

JL-3（巨浪-3）潜水艦発射弾道ミサイル
射程：10000km以上



（出典：新華社20250904）

- 台湾国防相によれば、発射ミサイルは**JL-2**
- 海南島亜龍基地のJin級（094型）SSBNが基地にてミサイルを搭載し、海南島北東沖に移動して発射した可能性があり、より実戦的な試験発射。**JL-2搭載のSSBN戦略パトロールの実効性**を示したもの
- 2023年版米国防省報告書ではより**射程の長いJL-3をJin級SSBNに配備**と評価しており、今次発射がJL-3でなくとも、配備されていないと見るべきではない。**JL-3搭載SSBNであれば第1列島線を出ずに南シナ海から米本土を射程圏内に収めることが可能**でより脅威
- 今回、JL-3を使用しなかった理由として以下の可能性が考えられる
 - ① 最新型のJL-3のテレメトリー信号を補足されなかったため
 - ② 094型はJL-2用に設計されており、発射実績から成功率の高いJL-2を使用。JL-3の公海への発射試験はJL-3用に建造中と報道されている096型SSBN就役後に計画

○ 中露海軍共同演習・パトロール

中露海軍共同演習「海上聯合-2026」

- 時期：7/6～13
- 場所：青島某軍港及び周辺海空域
- テーマ：海上安全脅威への共同対処
- 訓練概要：
 - ◇ 共同指揮部を設立し、両国混合編成
 - ◇ 集結・港湾フェーズ・海上フェーズの3段階で実施
 - ◇ 海上フェーズ：7/9～11
 - 共同偵察・防空・ミサイル防衛・対海上打撃・共同潜水艦救難等
- 参加艦艇（この他中露とも、海軍陸戦隊参加）
 - ◇ 中：レンハイ級ミサイル駆逐艦「鞍山」（103/北）
 ルーヤンⅢ級ミサイル駆逐艦「開封」（124/北）
 フチ級補給艦「可可西里湖」（903/北）
 ダラオ級潜水艦救難艦「陽澄湖」（847/北）
 潜水艦1隻
 - ◇ 露：イゴリ・ペリウソフ級潜水艦救難艦
 スラバ級ミサイル巡洋艦「ワリャーグ」
 ステレグシチー級フリゲート「レーズキー」
 キロ改級潜水艦「ウファ」
 アルタイ改級補給艦（中国側報道にないが、防衛省発表では対馬海峡を同時期に通過）

青島に集結した中露艦艇



（出典：環球網20260706）

中露艦艇の縦列航行訓練



（出典：新華社20260713）

中国：元級潜水艦



（出典：央視新聞20260711）

露：キロ級潜水艦



（出典：央視新聞20260711）

- 昨年の共同演習から潜水艦の参加が公式に報道されるようになり、中露の海中での協力も深化
- 露潜水艦は中国艦に比し静粛性が高いため音響情報収集能力が高く、日米艦艇に対する情報収集・識別能力向上に資するため、中国は露との協力を今後も進めていく可能性

これまでの「海上聯合」実施状況

注：「」内は演習のテーマ（確認できたもののみ記述）

	主催	場所	内容等
2012	中	黄海	「共同防御・シーレーン防衛」
2013	露	日本海	○ 中国海軍初の海外大規模派遣訓練 ○ 通信・補給・海象等の課題
2014	中	東シナ海	○ 泊地防御を初演練 ○ 初の訓練艦艇全て中露混成
2015	露	地中海	「遠海航行安全擁護」
		日本海	着上陸を初演練
2016	中	南シナ海	○ 初の対抗形式、島嶼奪取を演練
2017	露	バルト海	「共同救援と海上経済活動安全擁護」
		日本海・林-ツル海	潜水艦救難を初演練
2019	中	黄海	「海上共同防衛行動」
2021	露	日本海	「海上戦略レーンの安全擁護」 ○ 掃海を初演練 ○ 演習に接続し、共同パトロール開始
2022	中	東シナ海	「共同海上安全擁護」 ○ 封鎖・臨検・拿捕を初演練 ○ 事前調整なく、直接演習海域で合流
2024	中	南シナ海	「海上安全脅威への共同対処」
2025	露	日本海	○ 「戦略シーレーンの共同防護・西太平洋の安全脅威への共同対処」、中露から潜水艦各1隻が参加 ○ 事後、初の潜水艦共同パトロール
2026	中	東シナ海	○ 「海上安全脅威への共同対処」 ○ 昨年に引き続き、中露共に潜水艦×1参加

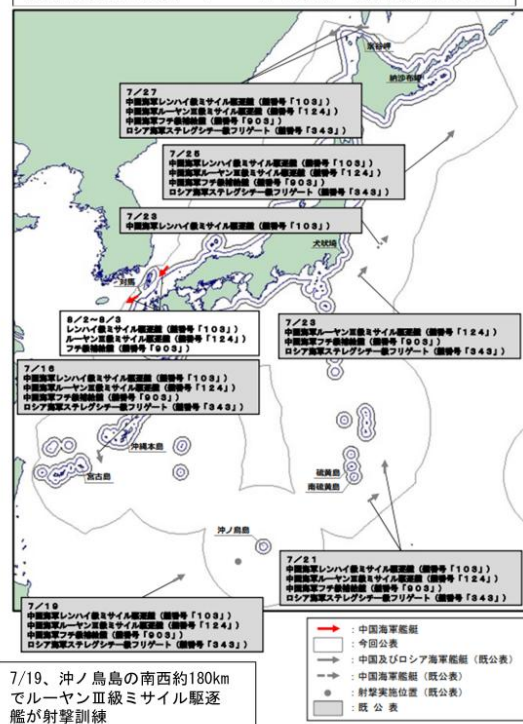
第7回中露海軍海上共同パトロール

中国報道の共同パトロールの状況

- 時期：7/13-29（17日間）
- 場所：青島から宮古海峡通過し、西太平洋・オホーツク海・日本海を航行、ウラジオストックへ
- 演練項目：艦載ヘリの相互着艦、共同対テロ・人道救援・臨検拿捕等
- 参加艦艇
 - ◇ 中：レンハイ級ミサイル駆逐艦「鞍山」（103/北）
ルーラン級ミサイル駆逐艦「開封」（124/北）
フチ級補給艦「可可西里湖」（903/北）
 - ◇ 露：ステレグシチー級フリゲート「レーズキー」

- 日本EEZ内を航行して日本周回するコースでパトロールしており、中露で日本を牽制
- 日本EEZ内での射撃に対し、中国外交部報道官は7/21、「沖ノ島は島でなく岩礁でEEZと大陸棚は有することができない」と主張。同主張はこれまでも行われてきたが、日本EEZ内での中国艦艇の射撃が公表されたのは初めて。中国が中露共同の場を利用し、より威圧的な手段を用いて、同主張の既成事実化を図ろうとするもの

防衛省発表の共同パトロールの状況 統合幕僚監部20260803



(3) 着上陸訓練等

呉・台湾国家安全会議秘書長が威嚇的とした中国公表の実弾射撃を伴う航行制限海域



(出典：X「Joseph Wu」 20260724に筆者が日本語追記)

【コメント】

7月には訓練が活発になる時期であり、実弾射撃を伴った訓練も多く確認された。

特に、上図に示すように、台湾海峡内にも実弾射撃を伴う軍事演習の為の航行制限海域が設定された。場所は着上陸訓練場のある東山島の正面海域であり、範囲も海岸線から最大 12km 以内の場所に設定され小規模であることから、直射火器等の実射を伴った着上陸訓練のためのものと思われるが、海峡内に設置したことから、台湾への威圧を企図した可能性がある。また同時期に東シナ海・南シナ海にも軍事演習のための航行制限海域が設定されていることから、中国側から公表しないものの連携した協同または統合訓練を実施した可能性も否定できない。なお、7月に実施された統合訓練の一例を次頁上図に示す。

また、次頁下図に示すように昨年からの接続試験を開始した RORO 船等からの上陸に使用する栈橋船が部隊との訓練を開始した可能性もある。

統合訓練の状況

7月23日付解放軍報は、「他軍種幕僚が海上指揮所に編入」の記事において、統合訓練の状況を以下の様に紹介

(資料源：解放軍報20260723 http://www.81.cn/szb_223187/szbqxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2026-07-23&paperNumber=02&articleid=983177)

- 夏季、東シナ海で東部戦区海軍駆逐艦支隊の編隊が航空部隊・地対空ミサイル部隊等の他軍兵種と統合訓練を実施
- 編隊の指揮艦艇「西安」(筆者注：ルヤン2ミサイル駆逐艦153)の作戦指揮ルームに、**東部戦区統合指揮センター**、東部戦区空軍等から幕僚が連絡官として編入
- 各軍種のアセットからの情報を集約し、船上で火力調整、統合防空作戦を実施
- 過去の各兵軍種指揮所での作業に比し、決心サイクルが短縮、統合の効果上昇

指揮艦艇「西安」



(出典：解放軍報20260723)

- 各軍兵種のみならず、戦区統合指揮センターから連絡官が指揮艦艇に派遣され、訓練が行われているのを確認
- 公表されなくとも、訓練最盛期には**戦区統合指揮センターが統制する統合訓練**が実施されている可能性あり

栈橋船の動向

7/11 接続訓練中の栈橋船



(資料源：Sentinel Hub EO Browser20260711)

玉環島海軍基地
2025年8月以降、
栈橋船3隻が停泊

- 2025年6以降栈橋船接続試験
- 2026年は4/19, 4/24, 5/29に接続訓練確認
- 5/29に水陸両用部隊と協同訓練した可能性

5/29 接続された栈橋船と
浮航訓練中の水陸両用車



(資料源：Sentinel Hub EO Browser20260529)

- 2026年7/11に接続訓練確認
- 陸軍着上陸訓練場に隣接した場所であることから、陸軍部隊と協同訓練した可能性
- ⇒ **栈橋船の戦力化が進展**

(3) 台湾東方海域での活動

○ 海警による台湾東方海域での法執行パトロール

7月4日、中国海警局報道官は「7月4日、中国海警の秀山編隊が岱山編隊と交代し、台湾島東方海域で法執行パトロールを継続。6月以来、岱山編隊は関連海域においてパトロール、船舶調査、漁業保護、救助活動などを実施し、正常な航行と秩序ある活動を確保し、台湾同胞を含む中国漁民の合法かつ正当な権益と生命財産の安全を保護した。中国海警は中国の管轄海域における法執行パトロールを引き続き強化し、国の領土主権および海洋権益を断固として擁護する。」と公表²。

台湾海巡署は4日、海警2305「秀山」、1401「崇明」が花蓮東方53カイリを航行しているのを監視中と公表³。

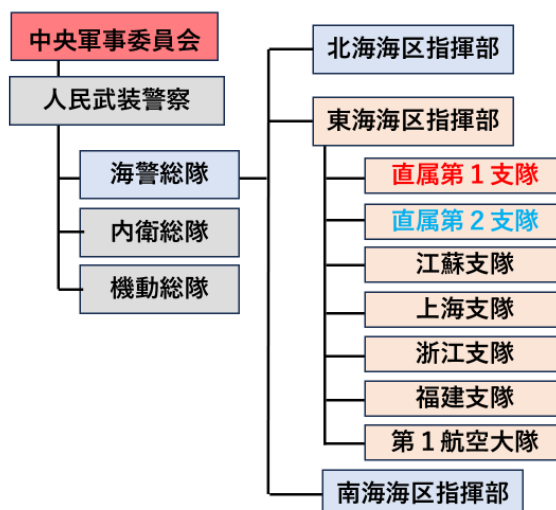
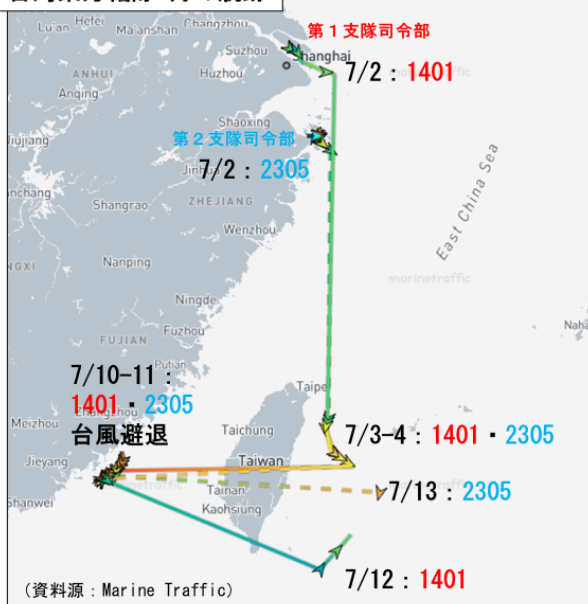
7月31日、中国海警局は「7月31日、中国海警秀山編隊が台湾島東海域で法に従い常態化法執行パトロールを実施」と公表⁴。

海警による台湾東方海域での法執行パトロール：7月以降

中国海警局報道官 20260704

- 7月4日、**編隊が交代**し、台湾島東方海域で法執行パトロールを継続
- 海警は中国の管轄海域における法執行パトロールを**引き続き強化**

台湾東方編隊7月の航跡



通常とは異なり、第1・2支隊の混合編成
⇒ 7月尖閣上番編隊は第1支隊であり、
尖閣編隊との連携を考慮した可能性も
あるため、**領海侵入時の運用**に注意

注：7/13以降、Marine Traffic では AIS 未確認

海警台湾東方編隊の日本海保への対応

中国側報道 20260725 環球時報<https://mil.huanqiu.com/article/4SWfjSgWije>

- 7月17～23日、中国海洋調査船「藍海201」が台湾東方海域で漁業海洋調査実施
- 7月18日、「藍海201」に海保巡視船「しゅんこう」が接近、常態化法執行パトロールを実施中の海警2304が「しゅんこう」を調査船から14海里の外側に留め続け、調査船への接近を阻止
- 更に同じくパトロール中の海警1401も直ちに駆けつけ、護衛任務を開始

左・中：藍海201のレーダー（水色は筆者が追記）



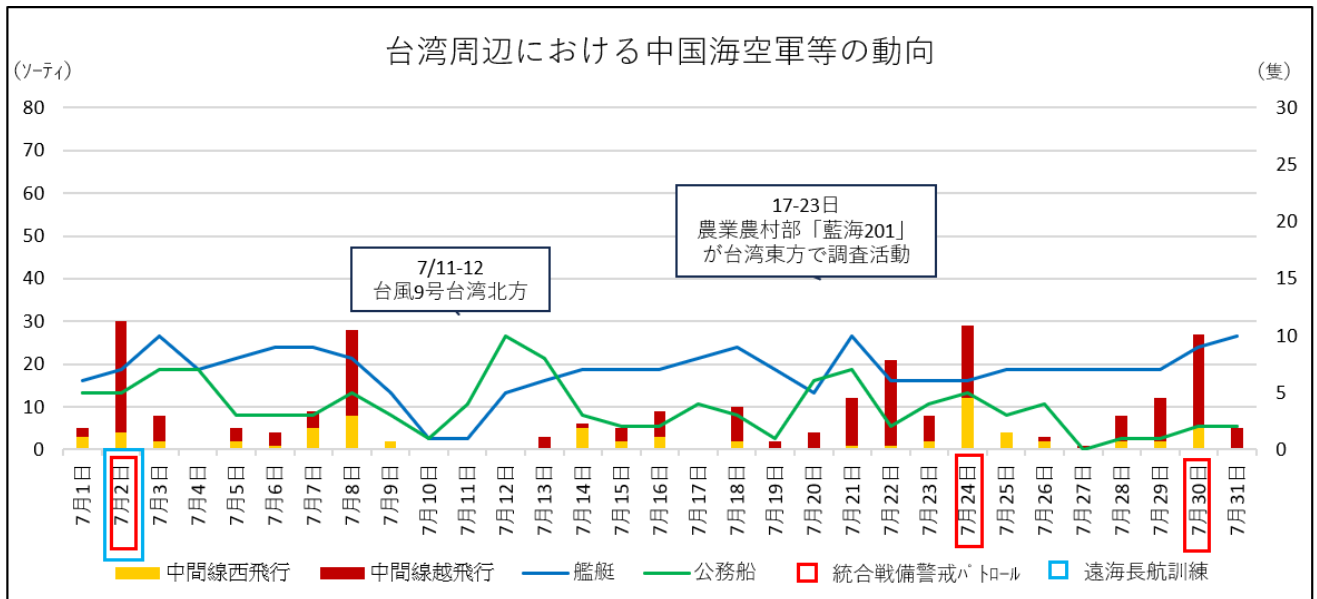
海警台湾東方編隊



3 対台湾動向

(1) 台湾周辺での軍の活動状況

○ 中華民国国防部発表による台湾周辺での中国海空軍の動向



(資料源：中華民国国防部 HP を基に作成)

7月是中国軍機延べソーター260 (内、中間線超えが延べ190)、中国艦艇延べ214隻、公務船延べ116隻が確認。1日における軍用機最大確認数は30ソーター、最大中間線超え26ソーター、海空統合戦備警戒パトロール3回、遠海長航訓練1回 (海空統合戦備警戒パトロールと同日)であった。

海空統合戦備警戒パトロールでは、3回何れもH-6爆撃機の参加が公表されており、2月11日以降初めて。

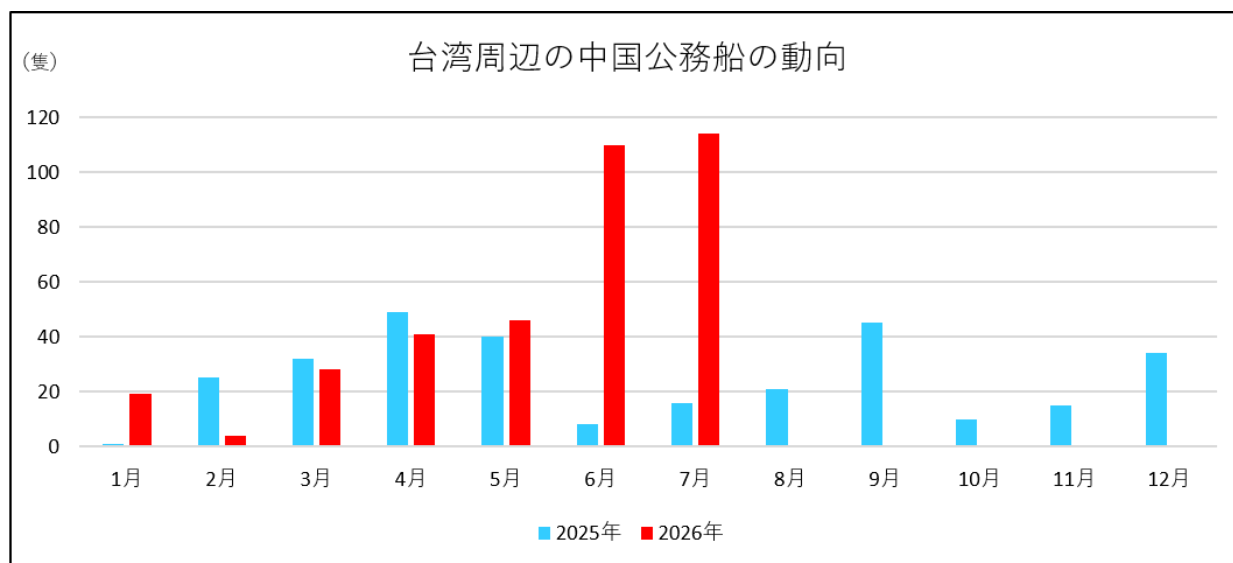
政府系シンクタンク、国防安全研究院国防戦略・資源研究所の揭仲委嘱副研究員は、7月20日に中国の軍用ヘリコプターと無人機各1機が離島の東引や烏坵以東の空域を飛行したと説明。ヘリコプターについては、中国が2022年8月に中間線を越えないとする台湾側との暗黙の合意を一方的に破棄して以降、台湾中部から北部にかけての比較的狭い海峡空域で、中間線を越えた初めての事例だとした。また台湾周辺空域に出現するヘリコプターの多くは艦載ヘリだとしつつも、20日のヘリコプターがそれに該当するか、中国陸軍航空部隊の地上基地から飛来したかは現段階では判断できないとした。もし陸軍航空部隊の機体であれば、中国軍が台湾侵攻時の空中機動作戦を想定し、台湾海峡や中間線の東側で不定期に訓練を実施し始める兆候になる可能性があるとした⁵。

【コメント】

下表は台湾周辺の中国公務船の動向を昨年と比較したものである。

2026年7月は延べ114隻で、先月の110隻と同水準であり、昨年と比して公務船の活動活発化の傾向は継続した。

中国は6月1日から海警の台湾東方海域法執行パトロールを開始し、7月も2隻が常時台湾東方に所在している状況を継続させた。また、台風9号に伴い、海上で活動中の海警船のみならず、第2直属支隊の舟山基地からも海警船が台風避退のため台湾海峡に移動し、確認隻数が増加した。



(2) 金門周辺海域での動向

台湾海巡署によると7月の台湾制限水域への入域は8日、14日、21日、29日の4回⁶で、いずれも4隻で約2時間の入域であった。

一方、中国海警東海分局報道官は7月29日、「7月29日、福建海警は金門付近海域において法に基づく定例法執行パトロールを実施」と公表した⁷。

(3) 東沙周辺海域での動向

台湾海巡署が公表する特異活動は確認されなかった

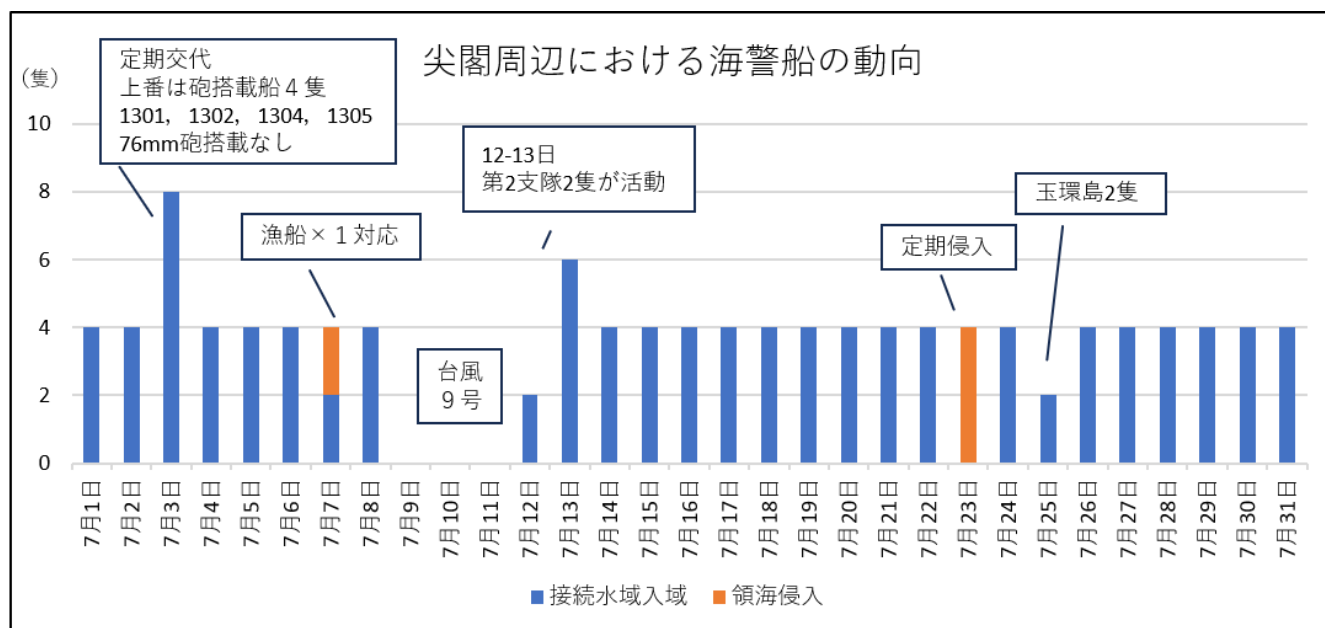
(4) 南沙諸島太平島周辺海域での動向

台湾海巡署が公表する特異活動は確認されなかった

4 対日動向

(1) 尖閣諸島周辺での活動状況

○ 海上保安庁発表等による尖閣周辺における中国海警船の動向



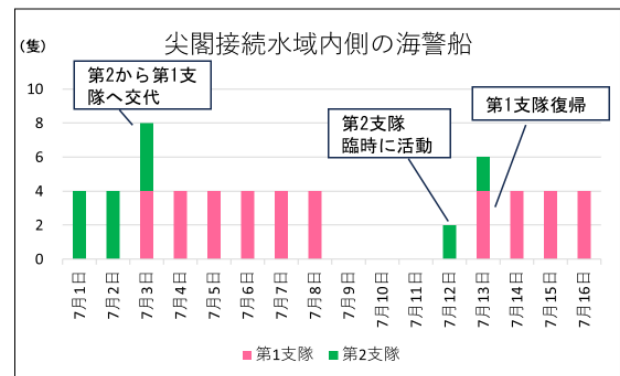
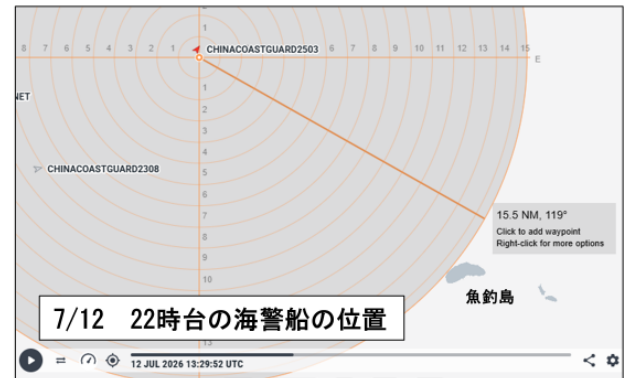
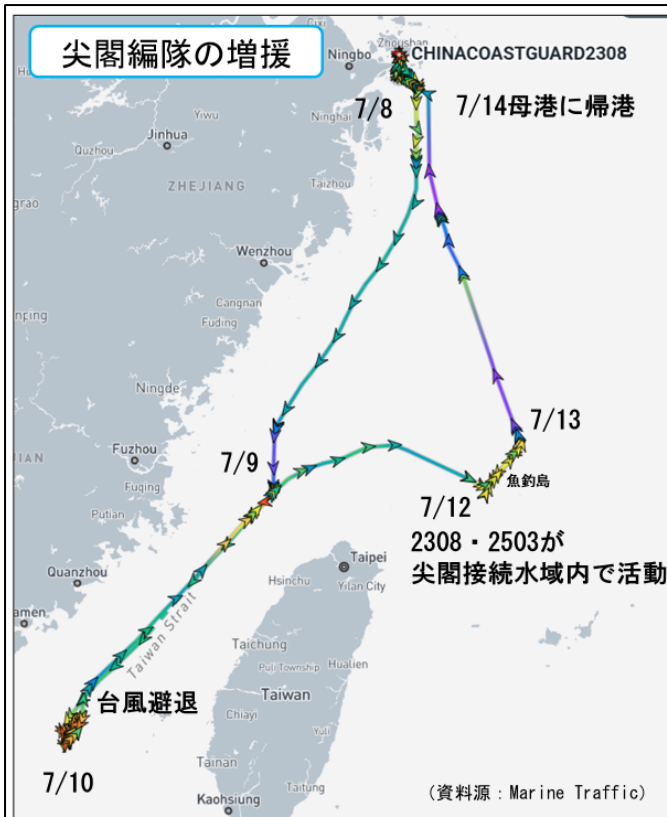
(資料源：海上保安庁 HP、八重山日報を基に筆者が作成)

7月も砲搭載船4隻による活動を実施した。

定期交代は3日であったが、7月1日に共産党創立105周年祝賀大会が開催されたため、3日ずれこんだと思われる。日本漁船対応や定期侵入には大きな変化はなかった。

7月7日、中国海警局報道官は「7月7日、日本漁船『瑞宝丸』が中国赤尾嶼（原文ママ、日本名大正島）領海に侵入、中国海警は法に基づき警告・駆逐のための必要な措置を講じた」と公表⁸。

7月9～11日、台風避退のため4隻共接続水域を出域して、台湾海峡へ移動、大呈湾付近にて待機し、13日に再び入域した。その前の12日から13日にかけて次頁図のように第2支隊の2隻が接続水域に入域し、13日は計6隻の海警船が確認されることとなった。

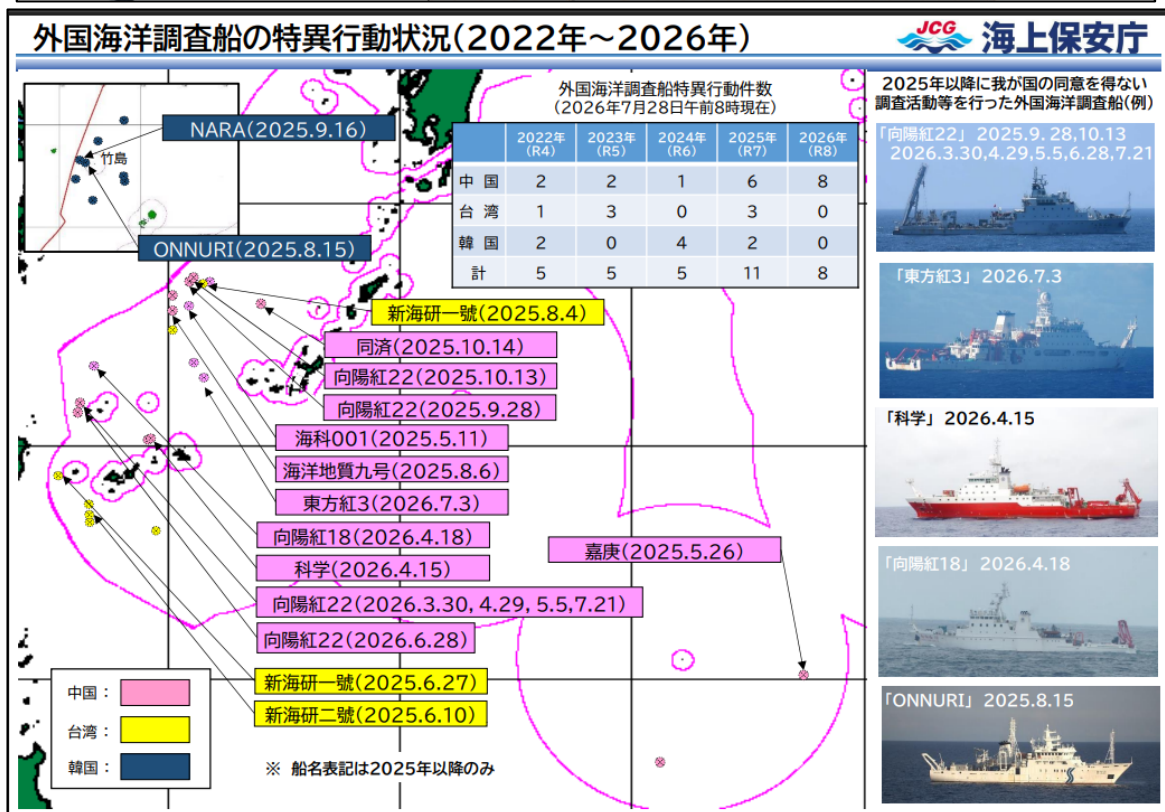


海保巡視船3隻が7月上旬、台風9号から避退、台湾海峡公海上で待機したことに対し、中国政府が外交ルートを通じて日本に抗議 (資料源: 共同20260713)

7月担当編隊外の海警船を増援させ、外交ルートだけでなく、目に見える形で抗議

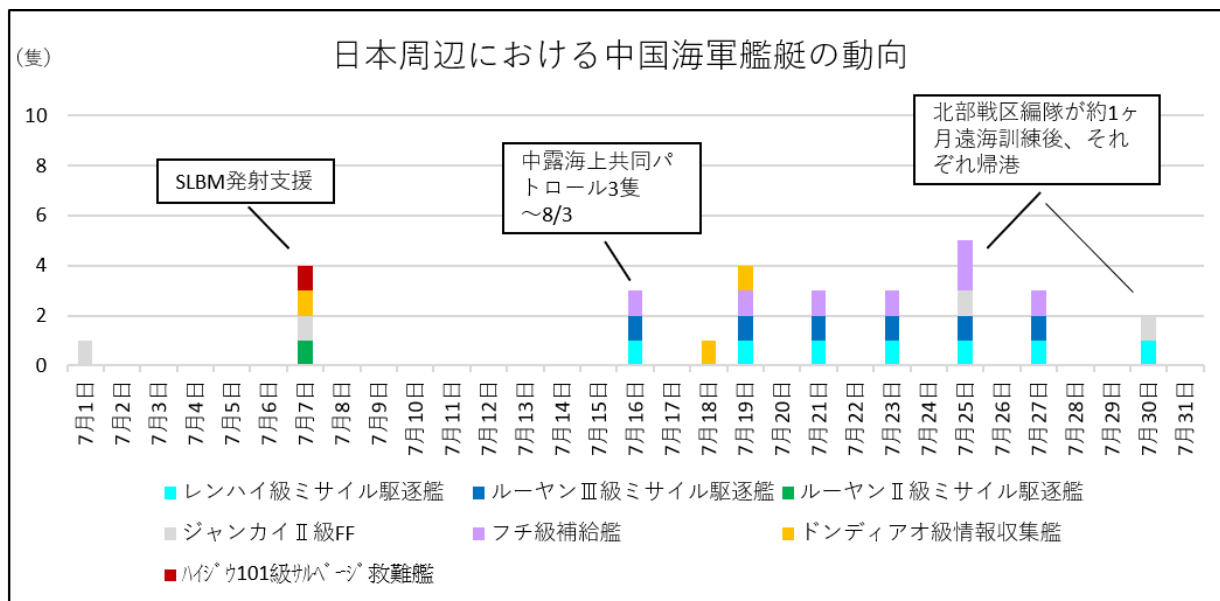
○ 海洋調査船「向陽紅 22」の活動

海上保安庁によれば、中国国務院自然資源部東海分局所属の海洋調査船「向陽紅 22」が、6 月に引き続き 7 月 21～27 日の間、尖閣諸島周辺海域の日本 EEZ 内で活動した。



(2) 日本周辺での軍の活動状況

○ 防衛省統合幕僚監部発表による日本周辺における中国海軍の動向



(資料源：防衛省統合幕僚監部 HP を基に筆者が作成)

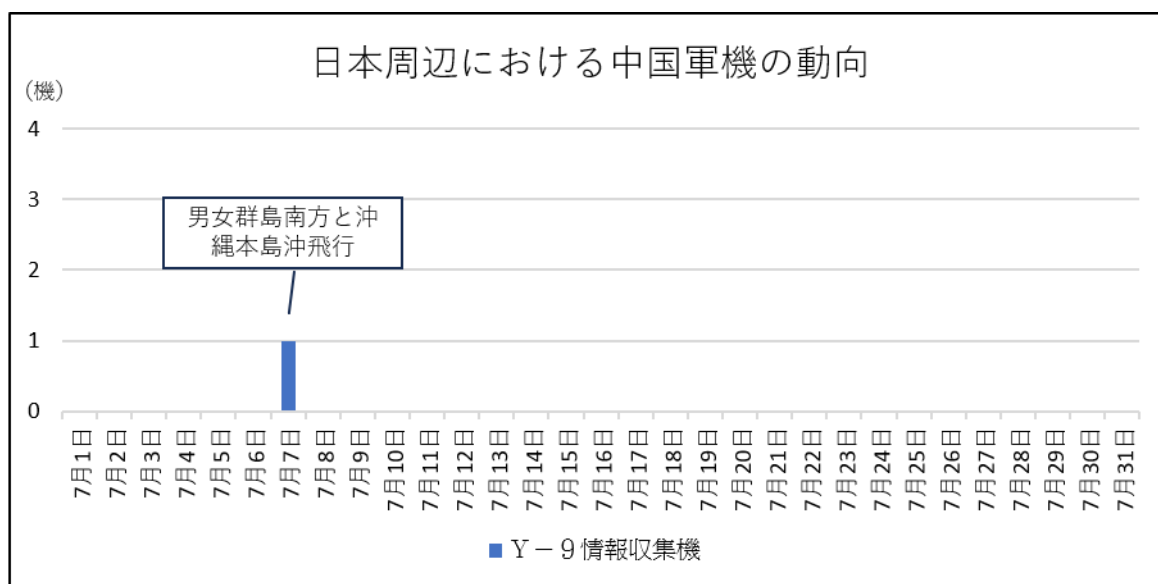
延べ 29 隻の活動が確認された。

中露海上共同パトロールについては、「2 各軍等 (2) 海軍」の項参照。

【コメント】

7月7日に東シナ海方向に航行した4隻はいずれも6月末に太平洋へ進出したことから、7月6日のSLBM発射支援を終了し、帰港した可能性がある。なお、サルベージ救難艦は沈没船の引き揚げや艦艇の曳航等を使用される支援船であるが、SLBMからの落下物引き揚げの為に活動した可能性がある。

○ 防衛省統合幕僚監部発表による日本周辺における中国軍機の動向



(資料源：防衛省統合幕僚監部 HP を基に筆者が作成)

延べ 1 機が確認された。

【コメント】

Y-9 情報収集機は 5 月以降、月 1 回のペースで同様のルートを飛行しており、男女群島から沖縄一帯に所在する自衛隊・米軍のアセット等の情報収集を定期的に行っている可能性がある。

(3) 対日認知戦（解放軍報、国防部の発表からの抜粋のみ）

○ 日本「新型軍国主義」の現実的脅威を警戒 解放軍報対日論文シリーズ2（4/8～）

⑮ 日本は「周辺地域の安全保障上の脅威」を過剰に煽るべきではない⁹ 郭強 陸軍指揮学院 7/5

⑯ 日本の残虐な侵略の罪行という史実は改竄を許さず¹⁰ 嚴海建 南京師範大学歴史文博学院 7/8

⑰ 防衛公社の名義で軍拡戦備の実を採る¹¹ 呂涛 軍事科学学院戦争研究院 7/29

○ 日本は再軍備化の企みは地域の平和への威嚇¹² 華丹・張麗 陸軍工程大学 解放軍報 20260702

日本の再軍備化への危険な道は国際社会と日本国内の有識者の平和を擁護し、戦争に反対する正義の声を無視し、第2次大戦の敗戦国という歴史的身分から著しく逸脱している。

○ 日本はウクライナ支援の名目で NATO と協力するという魂胆¹³ 管若荷 劉婉娟 国防大学聯合作戦学院 解放軍報 20260709

日本がウクライナ戦争に介入し NATO との連携を強化するのは、NATO のアジア太平洋化を進め、再軍備を加速しようとする戦略目標というのが本質だ。

○ 南鳥島に SAM 発射機設置¹⁴ 解放軍報 20260709

第2列島線東における火力の空白を埋める配置であり、戦時のシーレーン封鎖を企図している。

○ 国防部定例記者会見（7月9日）¹⁵

◇ 航空宇宙自衛隊への名称変更について

宇宙分野への軍事投資は5年間で10倍に、兵力は30倍以上に拡大しており、宇宙の武器化・戦場化を加速させ、宇宙軍拡競争を助長するとともに、日本の「新型軍国主義」がもはや赤裸々な現実的脅威となっていることを改めて証明している。

○ 欧州の多くの国が日本と軍需協力推進¹⁶ 語冰 解放軍報 20260713

欧州と日本の協力は装備面に止まらず、欧州は米露双方からの圧力への対抗として日本を引き込もうとし、日本はこの機に乗じて軍拡の野心を実現しようとしている。

○ 日本の判決を巡る悪辣な企みは成功しない¹⁷ 馬博 南京大学 解放軍報 20260716

日本は南シナ海紛争の当事国ではないにもかかわらず、目先の利益のために南シナ海問題の「利害関係者」と称し、絶えず地域情勢の不安定化を煽っており、その意図は極めて悪質である。日本は南シナ海問題に関して特別な歴史的責任を負っており、かつ清算しきれていない中、中国に対して南シナ海の領土主権と海洋権益について、あれこれいう権利はない。

○ オスプレイの宮古島初着陸に民衆が抗議¹⁸ 解放軍報 20260716

日本は新型軍国主義を推進し、琉球諸島を要塞化・戦場化して紛争と抵抗の最前線に変えようと

しており、地元住民は強く反対・抗議している。

○ 日本は無人作戦力により非対称優勢を狙う¹⁹ 解放軍報 20260720

日本の無人装備・理論研究・演習等への動向は、無人作戦力により戦場での非対称優勢を作り出そうとする試みであり、再軍備実現へ貢献するもので、看過すべきでない。

○ 日本の無人戦力による再軍備化推進を警戒²⁰ 解放軍報 20260720

2026 年防衛予算には無人戦力関連が列挙されており、真の目的は長期戦のリスクに備え、戦えるシステムを補完しようとするものだ。

○ 日米無人作戦領域の連携協力を見通す²¹ 解放軍報 20260720

日米の連携は、米国が日本を前方展開戦力として強化するという戦略であり、日本にとっても再軍備を追求する好機であり、アジア太平洋地域の安全と安定に対する脅威となっている。

○ 日米豪共同訓練「サザン・クロス 26」²²

今回、日本は初めてシステム化された部隊により参加しており、戦後の軍事的制限を突破し、長距離打撃能力を追求するものだ。

○ 日本が 5 つの「戦略的海峡」海図測量を開始する計画²³

日本は東南アジアの複雑な海上通路に関する情報上の空白を埋め、艦艇の恒常的な通過や秘密裏の水中機動といった軍事作戦を的確に支援し、外洋状況認識や戦力投射・展開能力を強化しようとしている。

○ 国防部定例記者会見（7 月 30 日）²⁴

◇ 国家情報局設立について

関連動向は第 2 次大戦中に日本国内の弾圧と外国侵略を行った「特高」を連想させるものであり、日本国内で広範な議論と強い不安を引き起こしていることに注目している。

◇ 艦艇の日本 EEZ 内での射撃を防衛省が公表したことについて

沖ノ鳥島の面積が 10 平方メートル未満であり、人工的な補強で海面上に露出しているのみで、人の居住を維持できないことは周知の事実で、国連海洋法条約における「島」の定義に完全に一致しない。

◇ 日本防衛相の核兵器関連の発言について

発言は極めて挑発的かつ危険なものであり、日本の仮面や国際社会を欺くための虚偽を改めて露呈させるものだ。強く警戒しなければならないことは、日本は国際的に「核の閾値国家」と見なされており、約 44.4 トンの分離プルトニウムを保有し、短期間で核兵器を製造・保有し得る核ブレイクアウト能力を長期に渡り維持していることである。

◇ 遺棄化学兵器覚書締結 27 周年について

日本側が覚書の履行に誠意を欠き、投資も不十分であること、とりわけ日本が遺棄した化学

兵器の埋設場所に関する詳細な情報を一向に提供しないことにより、依然として多数の化学兵器が未発見であり、中国の人々の生命、財産、および生態系の安全を脅かし続けている。

【コメント】

日本関連の記事は 19 件であり、先月の 24 件に引き続き多く掲載された。

特に核関連問題について、日本を「核の閾値国家」と位置付けようとする論説が確認されたのは、日本の核共有・核保有に対し強く牽制する企図と共に、日本に対する中国の核威嚇の正統性を主張するものとして注目すべきである。

5 南シナ海動向

○ 全般

◇ 7月26日、南部戦区報道官は、「7月26日、南部戦区は海空兵力により南シナ海海域において定例パトロールを実施した。」と公表²⁵。

○ スカボロー礁

◇ 7月23日、海警局報道官は「7月23日、比の公船2隻3012・3018が中国側の再三の阻止・警告を顧みず、故意に中国スカボロー礁の管轄海域に侵入した。海警は法に従い、比船に対し追跡監視・阻止等の必要な措置を講じ駆逐した」と公表²⁶。

◇ 7月23日、比沿岸警備隊報道官は自身のXにて「7月23日、比沿岸警備隊と水産資源局の船舶は中国海警局の不法、高圧的かつ攻撃的な行動にも拘わらず、スカボロー礁で操業する比漁民への補給任務を継続した」と投稿²⁷。

◇ 7月24日、中国海警局報道官は「7月24日、比が公船7隻、沿岸警備隊3隻、漁獲物運搬船1隻を組織し、さらに多数の漁船を扇動して、スカボロー礁の中国管轄海域に違法に集結。この間、比3001、3005、3017の3隻は、中国海警局による度重なる制止や警告を無視し、スカボロー礁領海へ侵入した。中国海警局は法に基づき、口頭警告、進路規制、放水銃等の必要な措置を講じ、断固として駆逐した。」と公表²⁸。

中国撮影の比公船



中国海警船から放水される比公船



(出典：央視新聞客戶端20260724)

◇ 7月30日、南部戦区は、「6月30日、南部戦区は海空兵力によりスカボロー礁領海領空及び周辺海空域で戦備警戒パトロールを実施した。」と公表²⁹。

公開された映像では、最新鋭フリゲート艦であるジャンカイⅢ555艦や、比小型機に機動的に対応するために投入したとするJ-10（ミサイル搭載）が初確認された。

南部戦区が公開した戦備パトロールの状況

スカボロー礁に接近する比軍機を中国無人機が撮影



比機の目標情報を伝達・照準するジャンカイⅢフリゲート



(出典：国防部網20260730)

◇ 7月30日、中国海警局は、「7月30日、海警はスカボロー礁領海及び周辺区域で法執行パトロールを実施した。」と公表³⁰。

○ セカンド・トーマス礁

- ◇ 7月20日、比国軍は「セカンド・トーマス礁における中国海警局の攻撃的な行動について」との以下の声明を公表した。

「7月20日、中国海警 21560 の 8 人搭乗しているボートが違法に BRP シエラ・マドレに接近し、写真や動画の撮影を行った。比海軍のゴムボート 2 隻が、穏やかかつ非対立的な方法で退去させようとしたところ、中国側が暴力的・攻撃的に反発し、木製の警棒で比海軍隊員の頭部を殴打し、負傷させ、ゴムボート 1 隻を破損させた。」³¹

- ◇ これに対し中国海警局は 20 日、以下の声明を公表。

「7月20日午前9時頃、中国海警局の小型巡視艇が中国のセカンド・トーマス礁付近の海域で定例パトロールを行っていたところ、比は不法に座礁させている 57 号艦（筆者注：シエラマドレ）からゴムボート 2 隻を出し、中国からの度重なる明確な警告を無視し、巡視艇に危険な方法で急速に接近し、体当たりした。この間、比側は先にオールや長い棒を使って中国の法執行官を悪意を持って攻撃した。中国は、法に従い、警告の発令、巡視艇の迂回、同等の対抗措置等により、現場を鎮め、最大限の理性と自制を維持した。事件後、比は事実を歪曲し、中国を誣告したが、完全に正誤の逆転である。」³²

7月21日には海警報道官が「7月21日午前、中国側は人道的配慮から、セカンド・トーマス礁に不法に座礁させている 57 号艦から負傷者を船載小型ボートで比沿岸警備隊の 9702 号船（筆者注：BRP Melchora Aquino）へ移送することを比に許可した。中国海警は比船舶への照会・確認を行うとともに、移送の全過程を監視した。」と公表した³³。

比が攻撃と主張した中国側映像



（出典：中国海警局）

中が攻撃と主張した比側映像



（出典：X「比国軍」）

【コメント】

スカボロー礁での投入装備の強化や、セカンド・トーマス礁での暴力的な対応等、南シナ海での比への威圧を益々強化させている。

6 軍事交流

(1) 共同訓練

中露海軍共同演習・パトロールは、「2 各軍等（2）海軍」の項を参照

(2) 軍事交流

○ 海軍遠海総合実習編隊の活動

7月5日、越海軍の招待により、海軍遠海総合実習編隊である「戚継光」と「崑崙山」がホーチミンに寄稿し、4日間の友好訪問を開始した³⁴。

24日、同演習編隊はブルネイに寄港し、4日間の友好訪問を開始した³⁵。

○ 越海軍艦艇の広州訪問³⁶

7月20日、越海軍フリゲート「チャン・フン・ダオ」が広州某軍港に寄港し、4日間の友好訪問を開始した。同艦は3月に第40回中越トンキン湾共同パトロール及び第1回海上共同訓練に参加した艦艇である。

○ 和諧使命-2026の開始³⁷

7月22日、中国海軍病院船「吉祥方舟」が、アフリカおよび南アジアでの「和諧使命-2026」任務を遂行するため、山東省青島の海軍港から出港した。

北部戦区海軍を主体とし、海軍軍医大学や聯勤保障部隊の医療要員も加わる。同船は18の臨床診療室、5つの補助診断室、8つの標準手術室を備え、一般外科、整形外科、産婦人科、眼科等の60種類以上の検査、治療、手術が可能。また、搭載された医療搬送用ヘリコプターにより、前線での緊急医療救助活動も可能である。

「和諧使命」は、2010年以来、これまでに11回の任務が完了しており、当初は病院船「和平方舟」が、第11回は「絲路方舟」が担任し、12回目の今回は「吉祥方舟」が初担当する。期間は200日以上に及ぶ予定で、ジブチなど複数の国を訪問し、現地住民に対して無償の医療サービスを提供する。

○ 中・タイ国防相会談

7月24日、タイ訪問中の董軍国防相は、タイのアドゥン国防大臣と会談した。双方は、両国・両軍の関係、国際・地域情勢、および共通の関心事について踏み込んだ意見交換を行った。また中国・タイ間の軍事協力の質とレベルを向上させることで合意した³⁸。

また同日、董国防相はアヌティン・タイ首相に会見、アヌティン首相は、タイ・カンボジア間の紛争の平和的解決のために中国側が果たした積極的かつ建設的な役割に感謝を表明した³⁹。

○ 中・ブルネイ国防相会談

7月28日、ブルネイ訪問中の董軍国防相は、ブルネイのハルビ国防担当大臣と会談した。双方は、両国・両軍の関係、国際・地域情勢、および共通の関心事について、踏み込んだ意見交換を行った。また、両軍間の戦略的連携と互恵的な協力をさらに深化させ、南シナ海地域の平和と安

定を共に擁護すると表明した⁴⁰。

また同日、董国防相はハサナル・ブルネイ国王に会見、ハサナル国王はブルネイが推進する「ブルネイ・ビジョン 2035」への中国の支持に感謝を示した⁴¹。

【コメント】

軍事交流において、ASEAN 各国の内、越、タイ、ブルネイとの交流を強化し、南シナ海での比の孤立化を狙っている可能性がある。

発展途上国を主に巡回し、医療サービスを提供する「和諧使命-2026」が開始され、今回はアフリカ・南アジアでの任務を遂行する。前回の「和諧使命-2025」は南太平洋・南米を巡回しており、グローバルサウスへの影響力を強化するための任務も担っていると考えられる。

【参考文献】

- 1 中国軍網 20260703
<http://www.81.cn/jwtt/16471583.html>
- 2 中国海警局 20260704
https://www.ccg.gov.cn/hjyw/202607/t20260704_3129.html
- 3 海洋委员会海巡署 20260706
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=168306&ctNode=650&mp=999>
- 4 中国海警局 20260731
https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202607/t20260731_3174.html
- 5 フォーカス台湾 20260721
<https://japan.focustaiwan.tw/cross-strait/202607210009>
- 6 海洋委员会海巡署 20260708
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=168345&ctNode=650&mp=999>
海洋委员会海巡署 20260714
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=168424&ctNode=650&mp=999>
海洋委员会海巡署 20260721
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=168489&ctNode=650&mp=999>
海洋委员会海巡署 20260729
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=168581&ctNode=650&mp=999>
- 7 中国海警微信 20260729
<https://mp.weixin.qq.com/s/ia50Fzz5r1GFDwzgYZTDEQ>
- 8 中国海警局 20260707
https://www.ccg.gov.cn/hjyw/202607/t20260707_3132.html
- 9 解放軍報 20260705
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2026-07-05&paperNumber=05&articleid=981874
- 10 解放軍報 20260708
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260708/2883b44fd2ea29cc1ff3637418fffd96.pdf>
- 11 解放軍報 20260729
http://www.81.cn/szb_223187/szblb/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2026-07-29&paperNumber=04
- 12 解放軍報 20260702
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260702/0e961eb18eb32716929c45c65e3732fc.pdf>
- 13・14 解放軍報 20260709
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260709/bcd7cd81eefc48f7e6ae5fa5a6ed489a.pdf>
- 15 国防部網 20260709
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16472673.html>
- 16 解放軍報 20260713

<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260713/426afd0ac512c9ed94f515cdabb94b0f.pdf>

17 解放軍報 20260716

<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260716/d894f213774a6302b748ec3123b72ed2.pdf>

18 解放軍報 20260716

<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260716/408e3b60a397db4842151036503ea1f7.pdf>

19・20・21 解放軍報 20260720

<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260720/b9878f092885b3a0f65e0217b97aa6db.pdf>

22 解放軍報 20260723

<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260723/6acde347752276c52232593d6585a645.pdf>

23 解放軍報 20260730

<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260730/07712046939c8ab21255c891ac194a65.pdf>

24 國防部網 20260730

<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16476782.html>

25 南部戰區微信 20260726

https://mp.weixin.qq.com/s/1oOg4j2fjdF_G7NcL6HKTg

26 中國海警局 20260723

https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202607/t20260723_3148.html

27 X:「Jay Tarriela」 20260723

<https://x.com/jaytaryela/status/2080169407721177430>

28 中國海警微信 20260724

<https://mp.weixin.qq.com/s/SdWrWiAiryHhKY9wCYFejQ>

29 國防部網 20260730

<http://www.mod.gov.cn/gfbw/wzll/16476827.html>

30 中國海警局 20260730

https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202607/t20260730_3171.html

31 X:比國軍 20260720

<https://x.com/TeamAFP/status/2079120155368640766/photo/1>

32 中國海警局 20260720

https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202607/t20260720_3139.html

33 中國新聞網 20260721

<https://baijiahao.baidu.com/s?id=1871299580480420194&wfr=spider&for=pc>

34 環球網 20260707

<https://mil.huanqiu.com/article/4SH712sCJk8>

35 中國軍網 20260724

http://www.81.cn/yw_208727/16475712.html

36 中國軍網 20260721

http://www.81.cn/yw_208727/16474906.html

37 中國軍網 20260722

http://www.81.cn/yw_208727/16475177.html

38 中国軍網

http://www.81.cn/yw_208727/16475589.html

39 中国軍網 20260724

http://www.81.cn/yw_208727/16475661.html

40 中国軍網 20260728

http://www.81.cn/yw_208727/16476317.html

41 国防部網 20260728

<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16476363.html>

中国軍事動向月報 2026年7月

2026年8月14日発行

公益財団法人国家基本問題研究所
〒102-0093

東京都千代田区平河町2-6-1
平河町ビル5階

本書の無断転載、複写、複製を禁じます。